

産前・産後ママケアホテル × 自治体 の皆さまへ

子育て支援の強化と地域活性化を同時に実現する公民連携モデル



1 | 事業概要：産前・産後ママケアホテルとは

■ 目的

妊娠・産後の不安・孤立を軽減し、
住民が安心して利用できる“滞在型ケア”を地域に提供すること。

■ 内容

- ホテル・旅館の客室を活用した産前・産後・家族ケア
- 助産師がホテル・旅館に訪問し、相談・心身ケアを提供
- 医療行為は行わず、安心・休息・家族支援に特化
- 産前～産後・育児期まで切れ目なく支援

■ 特徴

- 新規施設の建設不要
- 既存ホテルを活用（財政負担を最小化）
- 地域医療・観光との連携が可能

2 | 導入の必要性：地域が抱える課題

■ 妊娠・出産・育児の不安が増加

- 産後うつ：7人に1人
- 産後の不調：約8割
- 相談先の不足・孤立化

■ 行政サービスの限界

- 産後ケア事業の枠不足
- 産前ケアは制度化されていない
- 医療機関の人手不足

■ 地域課題

- 出生数の減少
- 子育て世帯の流出
- 移住・定住施策の強化が必要

▶ 自治体の“支援の空白”を埋める新しい
仕組みが必要

3 | 自治体のメリット（財政・住民・地域経済）

■ ① 財政負担を最小化

- 新規施設建設なし
- 運営は民間が担当
- 自治体は補助制度と広報に特化
- 助産師は協会ネットワークを活用

■ ② 住民サービスの強化

- 産前ケアの新規導入
- 産後ケア枠不足の解消
- パートナー支援・家族支援の拡充
- 医療機関の負担軽減

■ ③ 地域経済の活性化

- ホテル・旅館の稼働率向上
- 観光消費の増加
- 助産師の新しい働き方創出
- 移住・定住促進に寄与

▶ “費用対効果の高い子育て支援”として議会で説明しやすい

4 | 連携スキームと安全性

■ 三者連携モデル

- **自治体**：補助制度・広報・医療連携
- **ホテル・旅館**：客室提供・基本接遇
- **助産師（協会）**：専門ケア・緊急時対応
- **協会**：品質管理・研修・トラブル対応

■ 安全性の担保

- 医療行為は行わない
- 助産師が専門ケアを担当
- 緊急時は「助産師 → 協会 → 医療機関」
- ホテルは医療判断不要
- 全国共通の品質基準・研修を実施

▶ 行政リスクを最小化しつつ、住民の安心を最大化

5 | 制度導入の効果（定量・定性）

定量的効果

- 産後うつ・不調の減少
- 医療機関の負担軽減
- 産後ケア事業の利用率向上
- 移住・定住者の増加
- 地域ホテルの稼働率向上

定性的効果

- 住民満足度の向上
- 子育てしやすい自治体としてのブランド向上
- 妊娠・出産・育児の安心感の向上
- 家族のウェルビーイング向上

6 | 制度導入のロードマップ

1. 地域課題の整理（協会が支援）
2. 制度設計（補助額・対象・運用）
3. 庁内合意・議会説明
4. 三者協定（自治体 × ホテル × 協会）締結
5. 住民広報（自治体+協会）
6. 利用開始・データ共有

お問い合わせ

一般社団法人ジャパンママケアホテル推進協会

メール：info@m-mirai.co.jp

電話：03-5148-1007